

おかの
岡野古窯跡群
(伊佐郡菱刈町田中岡野)

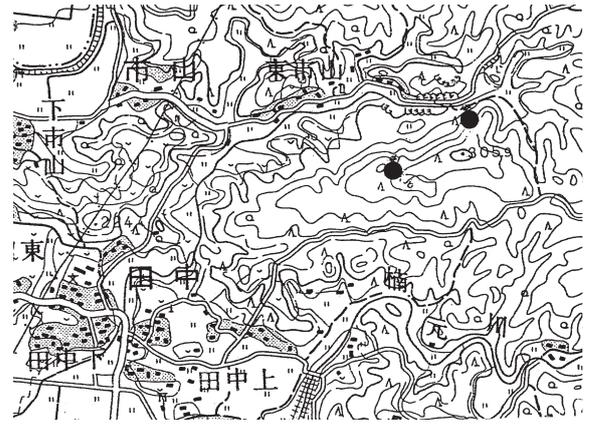
位置と環境

岡野古窯跡は町の中心から北に約5km離れた伊佐郡菱刈町田中岡野に位置する。周辺は四国からの四万十層群といわれる基盤の上に始良カルデラによる噴出物である溶結やシラスを基盤とし、国見山・黒園山から幾重にも延びた緩やかな丘陵と小谷が形成され、丘陵端部の低地には重留川の支流田中川が南流する。当古窯はこの山塊の袖部にあたる標高約210mの丘陵斜面に構築されている。

調査の経緯

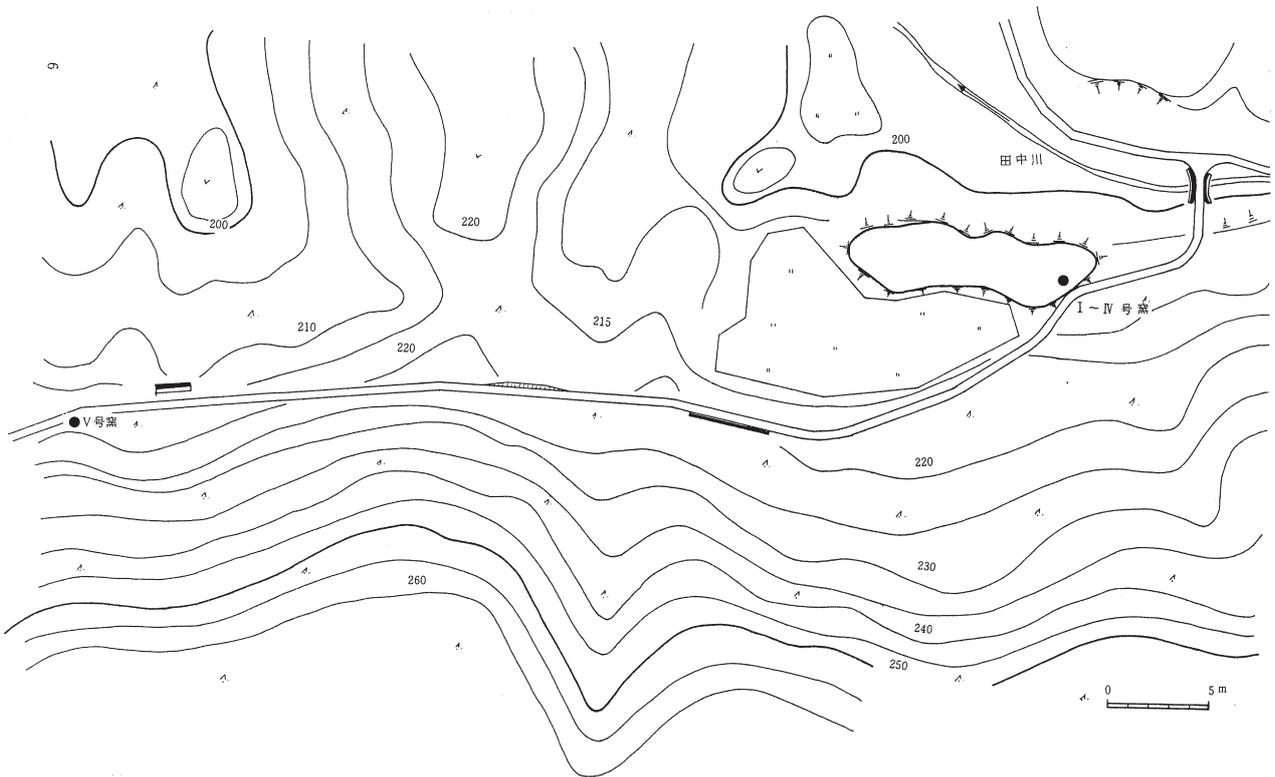
昭和57年(1982)3月林道工事中に須恵器の登窯が2か所で計5基が発見された。発見当時は3号窯を除いてすでに掘削工事によって大半の窯本体は、輪切り状に破壊を受けていた。本調査は白坂林道工事に伴い、菱刈町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て、昭和57年(1982)6月～7月にかけて発掘調査を実施した。

岡野窯跡群について、2号～4号窯跡は(1号窯



第1図 岡野古窯跡群の位置

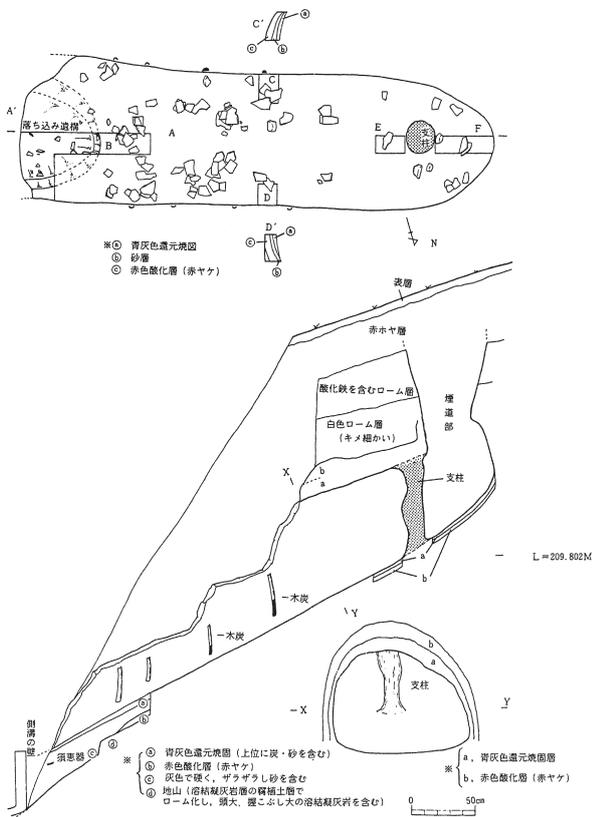
は工事関係者によると2号窯跡の北東側にあったというが現時点ではすでに消滅しており、確認出来なかった)田中川に近い山稜袖部の谷が奥まった独立した小台地の南東に傾斜した丘陵斜面に沿って、お互いが並列して構築されている。さらに、5号窯はここから南へ約400m登った丘陵傾斜面の中腹に位置していることから、岡野古窯跡は2か所に分布している。これらの窯は溶結凝灰岩を基盤とする丘陵傾斜面に構築された地下式登窯である。なお2号～4号窯跡に係わる灰原は林道を挟んだ低地の水田



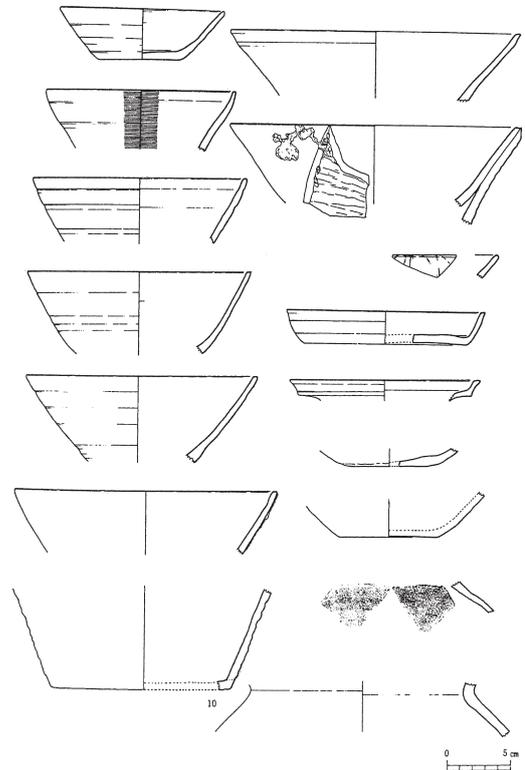
第2図 岡野古窯跡群の周辺地形図



写真1 岡野窯跡全景



第3図 III号窯跡



第4図 出土須恵器

地に広がり2か所で確認された。

遺構と遺物

5基の窯の中で3号窯跡(第2図)は燃焼部、焼成部、煙道部が残存し、最も保存状態が良好であった。3号窯は主軸方向N-73°-Wで、焚口は現道の

下部に延びているものと予想される。燃焼部は幅約80cmで床面には砂を含んだ硬くしまった灰が堆積して落ち込みが検出された。底には焼けた痕跡は見られず灰層中に須恵器の破片が出土した。焼成部の天井は煙道接合部から長約1mが残存し、断面はかま



写真2 III号窯支柱



写真3 III号窯焼成室土器出土状況

ぼこ型となる。焼成部の床面の長さは約4.2m，最大幅1.1m，高さ84cm，中央床面の傾斜角度25°，焼成部末端では勾配が急になり傾斜角度40°で奥壁へ続く。床面は灰色を呈してかなり堅緻で，下層は赤褐色を呈している。また，天井から側壁にかけては，スサを混ぜた粘土で整形し，凸凹な仕上がりで指痕が顕著にみられる。なお，左右の側壁には間隔をもって4本ずつの木の枝が縦位に組み込まれている。これら木の枝は火を受けて炭化したまま現存するものや燃え尽きて空洞となりその痕跡のみを残した状態で発見された。窯壁の補強材として用いられたのだろう。また，木枝と木枝を繋いで固定する紐も付着して発見された。焼成部と煙道の接合部には床面から高さ71cm，径約18cm程度の円柱状の粘土柱を垂直に立て，天井の落下防止の補強策とする分煙柱が存在していた。窯尻の平面形は丸く仕上げ，奥壁は焼成部床面との傾斜角度は110°で袋状の窯尻となる。煙道は奥壁より約18cm内側から天井部を径約36cmで割り抜き，出口に向けてやや拡張しながら直径約65cmで，高さは約1.4mである。遺物(第3図)には，焼台に使用した石や須恵器片74個が出土した。坏(1)は口径13.2cm，底径6.1cm，器高4.1cm。口縁部は直行して外開きを呈し，口唇部は丸く仕上げる。内外面ともに回転ナデ調整，底面はナデ調整，外底面はへら削り。腰部には「×印」の窯印が線刻されている。埴(2)は復元口径が14～18.5cm。口縁部は直行する。立ち上がりは回転へら削りを施す。中には窯歪みやすきや飛砂，別の須恵器が粘着するものがある。鉢(3)は復元口径21cm。口縁下で弱い稜が付きわずかに外反する口

縁部である。壺(4)は復元口径15.2cm。口縁部は大きく外反し，屈折して稜を有し口縁端部は肥厚して小さく外反する。皿(5)は復元口径15.9cm，底部径12.9cm，器高2.1cm。立ち上がりはわずかに丸みを帯び直行する口縁となる。口唇は平坦に仕上げる。底部は平底で回転へら削りである。甕(6)は胴部の破片が多数出土した。破片のため，器形や規模は定かではないが，外面のタタキ具には主に格子文をがみられ，内面の当て具には同心円や平行文がみられる。そのほか，灰原から坏と蓋が出土した。(7)は口径14cmで，器高5cm，径7.5cmの低い貼付け高台を持つ坏身である。腰部は丸味を帯びて外開きで直行する口縁部となる。(8)は復元径14cmで，口縁部は屈曲して稜を持ち，口縁端部はつまみ出しによる略三角形に仕上げている。岡野古窯の構築年代は出土須恵器から小田富士雄による八女古窯編年のVII様式末～VIII様式初頭に比定され9世紀頃の所産と思われる。

特徴

本県の須恵器の生産遺跡としては，薩摩国府・国分寺専用の窯である川内市鶴峯3号窯跡と金峰町中岳山麓古窯跡が知られている。

資料の所在

出土遺物は，菱刈町教育委員会に保管されている。

参考文献

菱刈町教育委員会1983「岡野古窯跡群」『菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書』1

(青崎和憲)